

【視察調査報告書】

会 派 名	八王子市議会公明党
参 加 議 員	【議員】8名 村松徹、美濃部弥生、渡口禎、富永純子、久保井博美、 日下部広志、森重博正、古里幸太郎
日 程	令和7年(2025年)12月22日(月)～12月24日(水)
詳 細	
視察日及び視察先	12月22日(火) 鹿児島県志布志市 (有)そおりサイクルセンター視察
視 察 内 容	廃棄物管理と紙おむつリサイクル事業について
概 要	<p>【概要】 志布志市は、焼却施設を持たないという制約を逆手に取り、徹底した分別によって19年連続でリサイクル率全国1位を達成している。今回の視察では、その根幹をなす廃棄物管理システムと、世界初となる使用済み紙おむつの「クローズドループ・リサイクル」事業について調査した。</p> <p>【基本理念】 「美しい地球を子供たちに。限りある資源を大切にするために。混ぜればゴミ、分ければ資源」というスローガンを事業開始当初から掲げ、一貫して実践している。</p> <p>◎【廃棄物管理】 廃棄物管理の理念とシステム「混ぜればゴミ、分ければ資源」 平成11年から開始された26品目に及ぶ詳細な分別収集により、最終処分場の延命化(残余年数40年以上)と、焼却施設を保有する場合の約3分の2という低コストな処理を実現している。 「記名ルール徹底」ゴミ袋への記名を義務付け、市民一人ひとりが排出責任を持つ仕組みが分別意識の向上に寄与している。 「生ごみの資源化」平成16年より生ごみを分別し、5ヶ月かけて「純ちゃん堆肥」として資源化。これにより埋立ごみ量を大幅に削減した。</p> <p>◎【紙おむつリサイクル事業】 紙おむつリサイクルプロジェクト産官連携の資源循環 ユニ・チャーム(株)と連携し、埋立ごみの1～2割を占める使用済み紙おむつを回収。独自のオゾン処理技術により、パルプ、高分子吸収剤(SAP)、プラスチックに分離・再生する。 「安全性と製品化」再生パルプはJIS規格が制定され、安全性・品質が客観的に担保されている。再生された素材は、再び新たな紙おむつ(マミーポコパンツ等)やトイレトーパー等の原料として活用されている。</p>

<p style="text-align: center;">所 感 等</p> <p style="text-align: center;">（意見・課題・ 本市への反映など）</p>	<p>【所感等】</p> <p>「心理的障壁への対応」 高齢者層において「おむつの使用を知られたくない」というプライバシー面での抵抗感が課題であったが、中身の見えない「不透明な専用回収ボックス」の設置により、市民の心理的負担を軽減している点は非常に参考になる。</p> <p>「事業系ごみへの拡大」 現在は家庭用が中心だが、介護施設等から出る「事業系一般廃棄物」の回収・資源化に向けた法的な調整やスキーム構築が次の焦点となっている。 分別の徹底による経済性：焼却炉を作らず、徹底的に分けることで処理コストを抑制し、財政負担を軽減させている点は、自治体経営の観点からも重要である。</p> <p>【埋立ごみの更なる削減と「SDGs 未来都市」】</p> <p>①RPF 化の推進：埋立ごみの成分調査を実施した結果、約 50～60%が RPF（固形燃料）の原料になり得ることが判明。今後、埋立ごみを破碎・選別して RPF を製造する設備の導入を検討している。</p> <p>②SDGs 未来都市：2024 年 7 月、市の廃棄物政策を核とした提案が評価され、内閣府の「SDGs 未来都市」に選定された。今後はこの枠組みを活用し、ゼロカーボンを目指したまちづくりを推進する方針である。</p> <p>【本市への反映】</p> <p>①DX とアナログの融合、本市が推進する DX（デジタルトランスフォーメーション）と、志布志市のような「市民の協力による徹底した分別」というアナログな取り組みをどう掛け合わせるかが鍵となる。</p> <p>②資源循環モデルの検討、本市においても、高齢化に伴い増加する紙おむつの処理は大きな課題である。焼却・埋立ではなく、民間企業と連携した「資源」としての循環モデルを研究し、最終処分場の負担軽減と脱炭素社会の実現を目指すべきである。広域連携なども含め検討を進めてほしい。</p> <p>③意識啓発の再構築、「出したゴミに責任を持つ」という記名ルール の精神は、本市の分別意識向上においても示唆に富む。市民が「資源化」の成果を実感できる仕組み作りを提案していきたい。</p>
---	--

視察の様子



【視察調査報告書】

会 派 名	八王子市議会公明党
参 加 議 員	【議員】8名 村松徹、美濃部弥生、渡口禎、富永純子、久保井博美、 日下部広志、森重博正、古里幸太郎
日 程	令和7年(2025年)12月22日(月)～12月24日(水)
詳 細	
視察日及び視察先	12月23日(火) 福岡県久留米市 久留米市動物愛護センター視察
視 察 内 容	動物愛護センターの運営や行政課題について
概 要	<p>久留米市は、福岡県第3の都市。九州を代表するグルメタウンで、とんこつラーメン発祥の地と言われている他、人口あたりの焼き鳥店数が全国トップクラスの焼き鳥の街。筑後川の良質な水に恵まれ、日本酒の酒蔵が多く集まる。伝統工芸や近代産業まで高い技術力も誇る。国指定重要無形文化財の久留米餅は現在ファッションアイテムとして人気があり、ブリヂストン、アサヒシューズ、ムーンスターという日本を代表するゴム・靴メーカーを拠点にゴムの街として発展した。更に、医療の街としても知られ、多くの医師と高度な医療を提供できる複数の大病院が市民の安心を支えている。他に、歴史と自然、交通の要衝・住みやすさ・子育て環境の充実も特徴である。</p> <p>【久留米市動物愛護センター】</p> <p>殺処分ゼロに向け、保護した動物の命と健康を守り、動物にとってより良い譲渡に繋げていくための機能を充実・強化した施設を整備。</p> <p><開所までの背景></p> <p>旧久留米市動物管理センターが手狭になったことと、筑後川沿いにあったため近年の豪雨による浸水被害を考慮し、まちのシンボリック公園(百年公園)の中に新設。原口新五市長の肝入り事業として進められた。市長は、人間と動物の健康および環境保全を一体化すると考えるワンヘルスを推進するための施設に位置付ける考えを示されている。</p> <p>・令和7年5月26日 業務開始</p> <p><施設の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ●鉄筋コンクリート造・平屋建 294㎡ ●収容能力 犬2室(犬舎8)、成猫用1室(最大24頭)、子猫用1室(最大30頭) ●健康管理機能 譲渡先が決まるまでの期間、健康に飼育するための機能を設置。 ・隔離室、トリミング室、運動場(屋内外)、洗浄室 ●啓発・譲渡機能 百年公園の立地を活かし、啓発、譲渡の促進につながる情報提供を行う設備等を

	<p>設置。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・譲渡対象猫の展示室、譲渡会等開催用のスペース、屋外掲示板 <p><主な業務内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・犬の登録、狂犬病予防注射 ・放浪犬の捕獲、犬猫の保護収容、返還 ・収容した犬猫の飼育管理 ・収容した犬猫の新たな飼い主への譲渡 ・動物取扱業の登録、監視指導 ・特定動物の飼育許可、監視指導 ・動物愛護及び適正飼育等の普及啓発 等 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・獣医師3名(職員2名、任期付職員1名) ・ケガの手当やワクチン注射を行う処置室はあるが、手術室はないため、猫の不妊治療は獣医師会に協力を要請している。 ・令和 6 年については、助からない、また、譲渡ができない犬猫(犬2頭、猫4頭)をやむなく県に委託し処分したが、殺処分は現状ゼロ。 ・令和 6 年の譲渡状況 成犬0頭、子犬0頭、成猫2頭、子猫9頭
<p>所 感 等</p> <p>(意見・課題・本市への反映など)</p>	<p>【所感】</p> <p>久留米市動物愛護センターは、施設の規模が想定より小規模であったため、どのような機能が整備されているのか、これまで視察をした動物愛護センターと比較する思いで見学を行った。久留米市は人口約 30 万人の中核市で(面積は八王子市の約 2 倍)、市に野犬はいないと言われる中、開設の決定打は何であったのか、まずはそこに関心があった。何うと現市長の肝入り事業であり、そこに市長の動物に対する愛情を強く感じた。八王子市では、動物愛護センターの開設に広大な敷地が必要と言われており、市民の理解を得ることも難題になっているが、久留米市では、市民に丁寧に説明し、場所も百年公園の奥の方で小高い丘を削って建てたという説明を受け、率直に衝撃を受けた。センターの施設も必要最低限の機能は設置し、手術室は設けず獣医師会に委託しており、災害時の避難所としての機能は持たない等、役割を割り切ったスタイルでの開設の仕方は参考になった。センターの設置には、犬猫の保護数の推移を見ながら現状にあった適切な施設機能設置を検討、判断していくことも大事であると感じた。同時に、市民に対する動物愛護を啓発し浸透していくことで、人と動物との共生社会が実現すれば、動物愛護センター機能の縮小化もはかれるように思えた。とはいえ、防災機能は、何においても今後必要になると考えるため、八王子市では、避難所機能も備えた複合施設を目指していきたい。現在の仮犬舎がある北野下水処理場が令和 8 年には撤去解体されるため、動物愛護センターの開設は喫緊の課題である。今回の視察での学びをもとに、八王子市における動物愛護センター開設へのスピードアップをはかれるよう、市にも働きかけていきたい。</p>

【主な質問】

問)公園内という立地を活かした適正飼育の啓発活動について、具体的なイベントや掲示物などを問う。

答)公園内は犬の散歩をする市民が多く、センター前の掲示板に時期に応じたポスターを掲示している。(夏は動物の熱中症対策啓発など)環境部のイベントや子ども向け生涯学習イベントにて啓発を行っている。

問)動物愛護団体やボランティアとの連携における具体的な役割分担と資金的な支援の仕組みについて問う。

答)市内全ての動物愛護団体を掌握しているわけではないが、一部ミルクボランティアとして哺乳や馴化に協力していただいている。乳飲み子猫が収容された場合は、離乳するまでの期間を目途に世話をお願いし、その際に必要な資材を現物で支給。それ以外の資金的な支援はなし。

問)事前講習会や厳正な審査を義務付けることで、譲渡のミスマッチ率はどのように低下したか?また、譲渡後の継続的なフォロー体制について問う。

答)譲渡は必ずしも先着順ではなく、家族構成等も含めその家庭状況にマッチした動物を案内するようにしている。衝動的な譲渡は断っている。(65歳以上やひとり暮らしの方は断っている)譲渡のミスマッチについては、トライアル期間を設けることが最も効果的と考えている。特に、犬については、トライアル期間中に先住動物とのミスマッチや動物の大きな病気が発覚しセンターに戻された事例もあった。

問)新設された猫展示室やトリミング室などが、保護動物の心身のケア(アニマルウェルフェア)に与えている効果について。

答)猫展示室は十分な広さがあり、猫がのびのびと過ごせるつくりになっている。ただし、執務室に面しているため猫が要求鳴きをすることもあり、ストレスを与えないよう基本的にはロールスクリーンを下ろし、見学者が来たら見せるようにしている。トリミング室には専用機材が揃い、浴槽も十分な広さと滑り止めがあるため、動物にとっても安全で負担が少ない状態で施術が行われている。

問)感染症対策として新設された隔離室など、公衆衛生の観点から久留米市が特に重視している施策を問う。

答)シェルターメディスンとして動物同士の感染症などを防止するため、収容したばかりの動物と血液検査等を実施して陰性確認をされた動物は別の部屋に置くなどの対策を行っている。また、使用後の犬舎やケージの洗浄と消毒は徹底しており、使用したタオル等は消毒後に洗浄するよう工夫している。

問)市民からの迷子動物の情報や、犬の登録・狂犬病予防接種の推進策について、センターが主導している施策を問う。

答)犬猫の不明情報、保護情報の預かり、狂犬病予防接種の案内ハガキや集団注射の実施、市内動物病院に注射済票・新規登録の委託を行っている。

視察の様子

【久留米市動物愛護センター外観】



【視察の様様】



久留米市役所



久留米市動物愛護センター



猫展示室



犬収容室



猫収容室



処置室



犬猫へ装着するマイクロチップ



運動場(屋内)



運動場(屋外)

【視察調査報告書】

会 派 名	八王子市議会公明党
参 加 議 員	【議員】 7名 美濃部弥生、渡口禎、富永純子、久保井博美、 日下部広志、森重博正、古里幸太郎
日 程	令和7年(2025年)12月22日(火)～12月24日(木)
詳 細	
視察日及び視察先	12月23日(水) 長崎県長崎市 長崎スタジアムシティ視察
視 察 内 容	「長崎スタジアムシティ」プロジェクト
概 要	<p>株式会社ジャパネットホールディングスが主導する「長崎スタジアムシティ」プロジェクトは、単なるスポーツ施設の建設に留まらず、長崎市の深刻な人口減少問題に立ち向かい、地域全体の活性化を目指す大規模な地域創生事業として位置づけられた。</p> <p>プロジェクトの起点となったのは、2017年のプロサッカークラブ「V・ファーレン長崎」の経営危機である。ジャパネットは同クラブを100%子会社化し、経営再建に乗り出した。これを機に、ヤマト運輸の元社長からの助言を受け、長崎駅近くの広大な空き地(東京ドーム約2個分)でのスタジアム建設構想が浮上した。</p> <p>プロジェクトの最大の動機は、全国ワースト1位の人口転出超過率を記録する長崎市の現状に対する強い危機感であった。娯楽施設の不足、物価高、賃金の伸び悩みなどを背景とした若者流出に歯止めをかけるため、「世の中のワクワクを見つけ、磨き、伝える」という企業理念に基づき、新たな魅力と雇用を創出する複合都市開発へと発展した。</p> <p>事業モデルの核心は、スタジアム単体での投資回収の難しさ(50年以上)を克服するための複合開発にある。サッカー専用スタジアムを中心に、アリーナ、ホテル、商業施設、オフィスビルを一体的に整備。長崎に「なかったもの」を創り出し、複数のマネタイズポイントを組み合わせることで事業性を確保する戦略をとった。これらの施設を一体的に運営することで相乗効果を生み出し、事業としての持続可能性を高めている。サッカーの試合がない日でも賑わいを創出する「365 日楽しめる街」を目指している。</p> <p>総事業費1000億円はジャパネットが全額負担し、投資回収期間は35年としている。</p> <p>開業後1年で来場者数は485万人を記録し、約2000人の新規雇用を創出するなど、既に大きな経済的・社会的インパクトを生み出している。また、イベント企画・運営から飲食店の経営、ビールの醸造に至るまで徹底した「自前主義」を貫き、業界の常識にとらわれない働き方改革も推進している。</p> <p>今後の課題としては、イベントの認知度向上、インバウンド需要の取り込み(現状売上の2%)、高齢者や修学旅行生に対応するためのキャッシュレス決済の見直し</p>

(現金対応の「スマートペイメント」導入)などを挙げている。V・ファーレン長崎の J1 昇格を追い風に、年間来場者数 650 万人という高い目標を掲げ、長崎の未来を担うロールモデルとなるべく、事業の黒字化を目指している。

施設種別	具体的な内容
スポーツ施設	サッカー専用スタジアム(ピース スタジアム connected by SoftBank)、アリーナ(ハピネスアリーナ)、フットサルコート
商業施設	アミューズメント施設「VS STADIUM」、飲食店、足湯・サウナ付き温浴施設
宿泊施設	ホテル
ビジネス施設	オフィスビル、コワーキングスペース

所感等

(意見・課題・本市への反映など)

長崎市におけるこの新規大型施設の設立は、地域の活性化はもちろん、地域の若年層が地元への定住や帰郷を促進する都市形成の一助となることが期待される。市のシンボルとなる大型施設の創設を通じて、「長崎に貢献したい」という創業者の強い思いが伝わる視察であった。

この壮大な地域創生事業は、ジャパネットの「自前主義」の精神のもと、第三者に頼るのではなく、自社の力で運営するという、創業者の高田明氏の決断により実現した。長崎で生まれた企業として、地域を元気にするプロサッカークラブの消滅は看過できないとの思いが、スポーツ事業と地域創生への本格的な第一歩となり、見事に実現されたことに深く感銘を受けた。

実際にスタジアムへ足を踏み入れた時、その興奮と高揚感は言葉にできないほどであった。ここでプロ選手たちが白熱した試合を繰り広げていることを想像するだけで、その熱気が伝わってきて胸が高ぶるほど、素晴らしい設備の数々であった。

もともとこの地域は、人口減少が著しく、転出超過率が全国市町村でワースト 1 位となった経緯もある。さらに若者向け娯楽施設が不足していた(「ラウンドワン」すら存在せず、娯楽の選択肢が極めて限られていた)など、多くの課題を抱えていた背景から、この大規模施設には若い世代向けの設備が随所に取り入れられている。

課題として掲げられている高齢者や修学旅行生にも配慮したキャッシュレス決済整備について改善されることで、市内外からさらに多様な集客が見込まれ、活性化していくであろう。

視察の様子



【視察調査報告書】

会 派 名	八王子市議会公明党
参 加 議 員	【議員】 7名 美濃部弥生、渡口禎、富永純子、久保井博美、 日下部広志、森重博正、古里幸太郎
日 程	令和7年(2025年)12月22日(火)～12月24日(木)
詳 細	
視察日及び視察先	2025年12月24日(水) 長崎県長崎市
視 察 内 容	長崎スタジアムプロジェクト
概 要	<p>(1) <u>事業実施の背景</u> 長崎市では2022年7月に合併後初めて人口が40万人を割り込むなど人口減少が深刻化し、若者の流出抑制が喫緊の課題となっていた。この危機を打開するため、旧三菱重工業跡地(約7.1ha)を再生し、民間主導で地域経済の再興と雇用創出を目指す「経済再生プロジェクト」の最重点施策として、総事業費約1,000億円を投じる本事業が始動した。</p> <p>(2) <u>事業の概要と長崎市の取組について</u> 2024年10月14日に開業した、スタジアムやホテル、オフィス等の複合施設。市は「伴走者」として、工業地域から商業地域への用途地域変更や、固定資産税等の減免、約42億円の補助金交付などのハード支援を実施。さらに2024年4月には官民連携推進室を新設し、Vロード整備や無料シャトルバス運行、アウェーサポーターへの直接PRなどのソフト面でも強力に連携。年間約963億円の経済効果と2,000人の雇用を創出する。</p> <p>(3) <u>今後の課題について</u> 施設周辺の賑わいを市全体の活性化へ繋げることが重要である。特に試合のない平日の集客維持や、既存商店街への人流誘導、滞在時間の延長が課題。今後は「経済再生」と「少子化対策」を連動させ、公共交通の利便性向上や観光PRを強化することで、人口流出の抑制と市民のシビックプライド向上を両立させる。スタジアムを核とした持続可能な都市モデルを構築し、長崎市の「元気づくり」を全国へ発信していく展望である。</p>

所感等
(意見・課題・
本市への反映など)

民間企業のスピード感に対し、市が官民連携推進室を設置して窓口を一本化し、迅速に対応する体制は理想的なモデルと言える。用途地域変更や税制優遇などの支援に加え、プロ施設を高校生の大会に開放する等のソフト支援も、次世代への投資として有効である。本市においても民間のノウハウを柔軟かつ積極的に取り入れる取組の推進していく重要性を学んだ。

視察の様子

